

審議会等会議録

審議会等の名称	令和 7 年度 第 1 回山口市健康づくり推進協議会
開催日時	令和 7 年 7 月 23 日（水）14 時 00 分～15 時 05 分
開催場所	山口市保健センター 集団検診室
公開・部分公開の 区分	公開
出席者	塩見浩太郎委員、長崎孝司委員、安元重実委員、岡幸夫委員、大田修三委員、 若崎敬子委員、福田和子委員、土井克彦委員（代理:戸梶靖男氏）、眞城信委員、 松野下真委員、有富隆史委員、山崎智仁委員、兼安真弓委員、中村秀行委員、 奥原淑恵委員、基香織委員 春永亜由美委員、紀村修一委員、岡本鉄平委員 （19 名）
欠席者	田邊亮委員、西村いずみ委員、佐藤光恵委員、高橋幸広委員 （4 名）
事務局	健康福祉部長、健康増進課長、同課副参事 4 名、同課主幹 2 名、同課主査 2 名、 同課主任 1 名（11 名）
議題	1 開会 2 議題 （1）令和 6 年度保健事業報告 （2）令和 7 年度保健事業計画 （3）委員所属団体と連携した取組について
内容	1 開会 【健康福祉部長挨拶】 【委員及び事務局の紹介】 別紙名簿のとおり 2 議題 （1）令和 6 年度保健事業報告 資料 1 事務局から、資料に沿って説明。 【質疑応答】 ＜A 委員＞ 成人の歯科健診について。治療のため定期的に通院している方が受診票を持参 された場合の取り扱いについて迷っている。定期通院しているからと受診票を持 参されない方もいる。そのような方には、受診率向上の観点から受診票を持参し てもらい健診として扱うべきか、市としてどのように考えているか。 ＜事務局＞ 受診率向上の観点から、定期通院をされている方についても、受診票を持参し

健診として対応していただきたい。

< A 委員 >

そうであれば、定期通院中であっても受診票を持参する旨のアナウンスがあるとよい。定期通院中であれば受診票を使った健診は不要と判断される方もいるのではないか。

< 事務局 >

アナウンスの方法については検討したい。ご提案いただいた形で様々なツールを活用して受診者の方に届くよう工夫をしたい。

< B 委員 >

P 5 運動を 1 年以上継続している市民の割合について、ジムやウォーキングなど運動内容の詳細を教えてください。20～40 歳代の運動を伸ばそうと思うと、会社の健康経営を促すことが大事だと思う。そのあたりは市からどのように伝えているのか。

< 事務局 >

運動教室の内容については、ウォーキング講座や健康づくりに関する講座の中で脂質異常に対する効果的な運動、女性の健康づくりであればヨガなどの運動を実施している。

2 点目について。職域に対して働く世代健康コンシェルジュ事業を実施している。中小企業に対して健康づくりの投げかけを行っている。その中で栄養・運動・こころの健康などトータルの健康づくりの講話をしている。その中で運動に対するアプローチも実践している。

< B 委員 >

国の補助金や理学療法士の補助金なども提案すると実施しやすいのではないか。

< C 委員 >

P 6 こころの健康づくりに関する健康教育について、令和 6 年度の実績が伸びていると思うが、地区サロン等と記載されているがその他はどのような場面で実施されているのか。

< 事務局 >

計画に基づいて、こころの健康づくりについてもあらゆる保健事業で実施してきた。高齢者のサロンだけでなく、育児学級などあらゆる世代の方が集まる場を活用することを心がけてきた。それらが実績としてあがってきている。

< D 委員 >

質問というより意見。P 6 こころの健康、睡眠による休養が十分にとれている市民の割合について、アンケートによる「はい・いいえ」の主観的な評価だけで

睡眠を評価するのはどうなのか。例えば、子どもが1時間しか寝ていなくても、それでも十分に睡眠がとれていると判断するのはどうなのか。高齢者が15時間寝て満足している、ということになると認知症のリスクを高めることにつながる。主観的評価と同時に可能であれば実際の睡眠時間、年代に応じて適切かどうかを1つの指標になると、より睡眠に関する多面的な見方ができるのではないかな。

<事務局>

市としても、正確な睡眠時間をとることができず、主観的なアンケート結果のみで表しているが、検討していきたいと思う。

(2) 令和7年度保健事業計画 資料2

事務局から、資料に沿って説明。

【質疑応答】

なし

(3) 委員所属団体と連携した取組について

本市では若い世代の健康づくりの実践率の低さが課題であり、これまで以上に働きかけを強化する必要があると感じている。若い世代を対象とした事業への参加を促すために、随時事業の見直しを行ってきたが、ここ数年参加者数が伸び悩んでおり、青壮年期へのアプローチの難しさを感じている。市単独での取組には限界があることから、多様な主体と連携した取組の第一段階として、委員所属団体の皆様と一緒に取り組むことのできる内容や場面などについてご意見をいただきたい。

【ご意見】

<E委員>

若い世代の意識が低いということで、20歳前後の学生を対象に含まれる健康づくりの普及啓発の機会があれば、大学としても学生の教育という面でもメリットがあり、市にもメリットがあると思う。

例えば、昼休みの食堂は約300人の利用がある。短時間ではあるが、昼休みの時間を活用することも可能。実際には、多くの学生が入学と同時に一人暮らしを始め、ライフスタイルが変わるため、1年生を対象に朝ごはんナビを紹介させてもらっている。それだけでは足りないため、他の場面でも普及啓発を実施していきたいと思っている。

<F委員>

県大の交流スペースを活用して学生と健康に関する話ができると良い。

20～40歳代は運動機会が減る。子どもたちの運動会で大人の方は足が絡まるなど、運動不足を感じることもある。レノファ山口FCなどと協力して大人の運動

	会や体力テストを開催するなど、自身の運動能力を確かめてもらうことができると思う。 眼球運動のトレーニング機器を作成した。睡眠と目の関係も明らかになってきているため、数値化することで目の機能を確かめてもらうこともおもしろいかもしれない。 < G 委員 > 地域振興という事業名目で複数のイベントを実施している。昨年度 12 月にクリスマスの商店街を楽しんでもらうイベントを実施した。今年度も企画をスタートしている。昨年度のイベントの中で体験型のイベントの人气が高かった。昨年は地域防災の体験ブースを設けると多くの方が来場された。イベントでは勉強のような内容はあまり人気がない。スタンプラリーを実施することで、意図的に全てのブースを体験してもらうよう仕掛けた。今年度もクリスマスというテーマはあるが、来場者の子どもの 9 割が小学生、大人は 30～50 歳代が中心であり、来場者数は 15,000 人/日であった。このような場でブースを設けたり、体験型のイベントを実施することで、健康に興味のなかった方にも関心をもってもらえる機会につながるのではないかと思いますので、検討していただけるとよい。 < 事務局 > 本日いただいたご意見の他にも、委員所属団体の皆様と一緒に取り組むことのできることをして啓発の場面や情報発信媒体などがあれば、配布している「確認票」にてご提出いただきたい。青壮年期に限らず、広く市民に啓発できる場面で構わない。皆様からいただいた情報をもとに、今後の取組を充実させていきたい。 < 事務局 > 今回いただいた貴重なご意見は、今後の保健事業に活かしていきたい。次回の開催については、2 月頃の予定としている。本日、皆様と協議した「委員所属団体との取組」について、市及び各団体の取組状況の報告や次年度以降の取組案を共有したい。
会議資料	1 令和 7 年度 山口市健康づくり推進協議会次第 2 山口市健康づくり推進協議会委員名簿 3 令和 6 年度保健事業報告…資料 1 4 令和 7 年度保健事業計画…資料 2 5 「委員所属団体と連携した取組（周知・啓発）」に向けた確認票
問い合わせ先	山口市健康福祉部 健康増進課 TEL 083-921-2666